

第16回

文と文をつないで会話してみよう

講師

阿野 幸一

◆◆◆ 今回の目標 ◆◆◆

今回は、when や that を使って文と文をつなぐ表現を取り上げます。when を文の頭につけて「~のとき」と、文の内容がいつのことかの情報を加えたり、that で「~ということ」と文をまとめ、think や believe などの動詞と組み合わせて考えや意見を伝えたりできるようになりましょう。会話は相手といつしよに作っていくものです。単語が聞き取れない、言いたい単語が思い浮かばないときの対処法についても紹介します。

1 スキットの内容から



文と文をつなげた表現に注目して、2人のやりとりを聞いてみよう！

校長先生が高校生のころ



新聞部員の Tom は、校長先生の Ms. Kobayashi にインタビューします。

Tom : Ms. Kobayashi, are you ready for the interview?

Kobayashi : Yes, I'm ready.

Tom : Thank you. Here's my first question. When you were a high school student, what club were you in?

Kobayashi : Wow, it was a long time ago. When I was a student, I was in the brass band. I played the trumpet.

Tom : So, you like music!

Kobayashi : Yes, I think that music can make people happy. Do you like music?

Tom : Well, yes. Actually, I was in the chorus when I was in junior high school.

Kobayashi : Excellent! I think that you should sing at our next school festival.

Tom : You're kidding!

2 文法・表現 接続詞 when that



接続詞を使うと、2つの文をつなげて1つの文にすることができるよ！

スキットに出てきた **When I was a student, I was in the brass band.** という文は、どのように文と文をつなげているのでしょうか？

I was in the brass band. (私はブラスバンド部に入っていた)

だけでは、それがいつのことかわかりません。

そこでもう1つの文、**I was a student.** (私は生徒だった) に **when** をつけて文をつなげることで、「私が生徒だったとき、ブラスバンド部に入っていました」と、「~のとき」という必要な情報を加えて説明することができます。

I think that music can make people happy. はどうでしょうか？

I think ... (私は思います) だけでは、何を思っているかわかりません。

こちらも **Music can make people happy.** (音楽は人々を幸せにできる) という文に **that** をつけ「~ということを」とまとめてから **I think** とつなげることで、全体では「音楽は人々を幸せにできると私は思っています」と、自分の考えを伝える文にすることができます。

when や **that** は、会話などでよく使われる接続詞です。他にはどんな使われ方があるのか、調べてみましょう。

目的外的の
使用禁止

3 when や that を使った表現



自分の体験したことや、考えていることを伝えてみよう！

過去のことを伝える

I was in the soccer club when I was in junior high school.
(私は中学時代、サッカー部に入っていました)

When I was a child, I lived in Kobe.
(私は子どものころ、神戸に住んでいました)

when から始まる部分が文の前半にくる場合は、つなげる文との間にコンマが必要となります。また英語では聞き手にとって新しい情報は文の後半にくることが多いので、when が前にあるか後にあるかによって、伝えたいメッセージが変わることがあります。

I was in the chorus when I was a student.
(私は生徒だったとき、コーラス部に入っていました)

学校の部活動でクラブ名を言うとき、コーラス部やブラスバンド部には、サッカー部のように club はつけません。つけなくても、集団で活動している意味が伝わるからです。

☆あなたの文を作ってみよう！

I was in the _____ when I was in junior high school.

When I was a child, I wanted to be _____ .

自分の考えや意見を伝える

I think that you should go to the dentist soon.
(あなたはすぐに歯医者に行ったほうがいいと思いますよ)

I think that you should watch this movie.
(あなたはこの映画を見たらいいと思うんだけどなあ)

that 自体には意味や情報は含まれないので、日常の会話ではよく
I think you should watch this movie. というふうに that は省略されます。

I believe that we can understand each other.
(私たちはお互いに理解し合えると信じています)

People say that Japanese is a difficult language.
(日本語は難しい言語だと言われています)

☆あなたの文を作ってみよう！

I think that we should _____ .

I hope that I can _____ .

4 英語コミュニケーション 会話が途切れそうになったら？



単語がわからないときなど、会話をつなげるにはどんな方法があるでしょうか？

英語で会話を続けるために

英語で会話を楽しみたいけれど、すぐに途切れてしまって会話が弾まないという人も多いでしょう。ではどうしたら会話を続けることができるかを考えてみましょう。



① 相手の言っていることがわからないとき

笑顔でわかったふりをしていると、すぐに会話が止まってしまうし、相手から不信感を持たれてしまうかもしれません。わからないときには聞き返すようにしましょう。Could you say that again? (もう一度言っていただけますか?) と丁寧にお願いすることもできますし、カジュアルな会話であれば、Pardon? や Sorry? と上がり調子のイントネーションでお願いしてみましょう。

② 相手の話に出てきた単語の意味がわからない場合

その単語の意味を聞いてみましょう？もし turkey (七面鳥) が何のことかわからなければ、What is 'turkey'? や What does 'turkey' mean? のように聞いて説明してもらいましょう。

③ 伝えたいことを英語で表現できない場合

英語の単語が思い浮かばないことはよくあると思います。具体的な例を挙げてみたり、どんな時に使うものを説明したり、身振りや手ぶりも使うことで、相手からその単語が出てくるかもしれません。名詞などものを表す単語であれば、スマホなどを使って実物の写真を見せて、英語の単語を覚えてもらうこともできるでしょう。

④ 相手に話を振る

自分の話ばかりをしても会話は弾みませんよね。そんなときに役立つのが How about you? と言って、相手のことをたずねてみることです。相手の意見を聞きたければ、What do you think? と言ってたずねてみましょう。1つの話題について、自分と相手で話の内容を深めていくことができます。



